

きらりJA

きょうわ農業協同組合

「らいでんメロン」と「らいでんスイカ」

ブランド品育成や

先進的な事業を展開している
会員JAの活動を紹介します。



ブランド確立のポイント

- 豊富な用水を活用し、**収穫時期が調整・拡大できる施設栽培に踏み切った。**
- 連作障害に効果のある長ねぎとの混植をはじめ**環境に優しい技術を普及させた。**
- 糖度などを外観測定できる国内初の「**非破壊糖度センサー**」を導入。いち早く取り入れた**トレーサビリティ**とともに**安全・安心**をアピールした。

小高い丘から望める景勝地「雷電海岸」がブランド名の由来です。1964年誕生の「^{はったり}発足青果物生産組合」が前身で、2000年に「らいでんメロン生産組合」（西本峯雄組合長、153戸）と「らいでんスイカ生産組合」（岡崎行夫組合長、69戸）に分離しました。

らいでんブランドの形成には、国営かんがい排水事業が大きく貢献しました。事業によって確保した豊富な

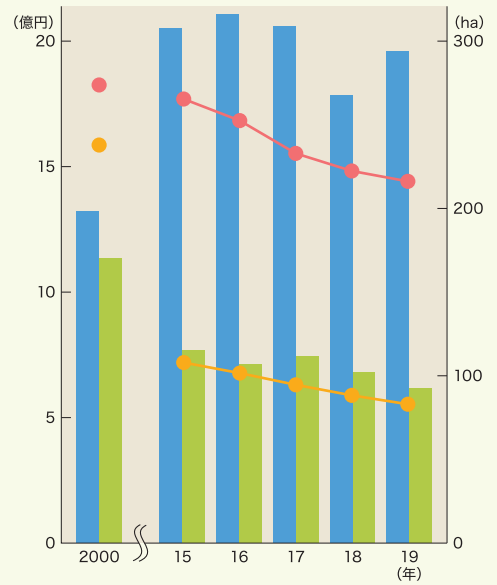


用水を有効活用。生産者

栽培面積と取扱高の推移

■メロン取扱高 ■メロン栽培面積
■スイカ取扱高 ■スイカ栽培面積

が丸となって施設栽培に取り組みました。とくにメロンは、トンネルやハウス栽培によって6月下旬から約4カ月間も収穫が可能となり、約7割が道外に出荷される



原動力になりました。長ねぎとの混植は、メロンに悪影響を与える土壌内の菌を、ねぎ根の持つ菌で抑え込むという栽培方法で、環境保全型農業推進コンクールの最高賞・農林水産大臣賞に輝きました。

同JAの出荷基準はメロン糖度13度以上、スイカ糖度10.5度以上です。この糖度や形状を光センサーで正確に外観測定するのが「非破壊糖度センサー」です。メロンは日本で初めて1997年に導入。スイカも99年に導入し、消費者から信頼される「上質な甘み」を持つメロンと、「爽やかな甘さ」が特長のスイカを安定出荷しています。